

# みどり 水土里ネット富山だより

(富山の土地改良情報)

2018  
第573号

1月1日発行



常西用水ブロムナード(富山市上滝)

会長  
職務代理者  
副会長

鹿熊 正一  
(朝日町土地改良区理事長)

専務理事

永森 雅之  
(学識経験者)

理事

荻野 幸和  
(黒部川左岸土地改良区理事長)

理事

中川 忠昭  
(常西用水土地改良区理事長)

理事

夏野 修  
(砺波市長)

理事

大井 正樹  
(高岡市土地改良区理事長)

理事

岩田 忠正  
(城端土地改良区理事長)

理事

奥村 隆  
(常東用水土地改良区理事長)

代表  
監事

木下 俊男  
(氷見市土地改良区理事長)

監事

上田 英俊  
(入善土地改良区理事長)

監事

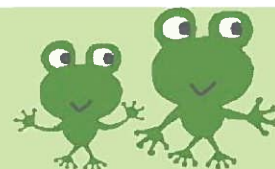
津田 修  
(婦負郡藤ヶ池土地改良区理事長)

(他 職員一同)



水土里ネット富山

(富山県土地改良事業団体連合会)



# CONTENTS

1	新年のご挨拶		
	全国水土里ネット会長	二階 俊博	1
	参議院議員	進藤 金日子	2
	富山県知事	石井 隆一	3
	富山県議会議長	稗苗 清吉	4
	北陸農政局長	印藤 久喜	5
	富山県農林水産部長	芝田 聡	6
	富山県農林水産部参事 農村整備課長	志村 和信	7
	富山県農林水産部 農村振興課長	南 理	8
2	とやま水土里女子フォーラムの開催		9
3	第11回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催		9
4	「平成29年 とやま水土里フォーラム」の開催		10
5	「土地改良区新任理事研修会」の開催		11
6	第40回全国土地改良大会（静岡大会）		12
7	北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請		12
8	平成29年度富山県建設優良工事（土地改良部門）の表彰		13
9	農業集落排水施設に係る新技術普及研究会 北陸ブロック会議		14
10	平成29年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業 新規担当者研修		15
11	平成29年度換地関係異議紛争処理実務研修会（北陸ブロック）		15
12	土地改良区の基盤強化を目指す各種研修会の開催		16
	①平成29年度富山県換地センター換地計画実務研修会		16
	②平成29年度ため池安全点検・管理体制強化に関する現地研修会及び技術研修会		16
	③富山県構造改革推進ほ場整備研究会 先進地研修		17
13	式典 発電所の完工式、起工式、運転開始式		17
14	<情報>富山県農業用水小水力利用推進協議会		19
15	<情報>富山県多面的機能推進協議会		20
16	<情報>非補助農業基盤整備資金のご案内		20
17	<訃報>		21
18	<お知らせ>今後の主な行事予定		21



## 新年に当たって

みどり  
全国水土里ネット  
会長 二階 俊博

平成30年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年もまた、多くの災害に見舞われました。7月には九州北部地方を中心として集中豪雨が、また、8月には台風5号が和歌山県に上陸、9月には台風18号が鹿児島県、高知県、兵庫県に上陸しました。さらに10月になって台風21号、22号と続けて発生し、沿岸部を中心に非常に大きな被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成30年度当初予算は328億円の増の4,348億円、平成29年度の補正予算を合わせると、5,800億円と平成22年度の大規模削減を上回る水準となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、一昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が浸透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、担い手への農地の集積・集約の加速化に向け、農地中間管理機構と連携した新たな基盤整備事業を実施できる制度が創設されました。また、防災・減災対策の強化や事業実施手続の簡素化といった使い勝手の良い事業制度も整えられました。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。



## 引き続き「闘う土地改良」で全力

かねひこ  
参議院議員 進 藤 金日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、佳い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私も参議院議員として国政に参画して2回目の新年を迎えました。新年に当たり、常日頃からの皆様のご協力のご理解に心より感謝申し上げますとともに、心を新たにして皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいる覚悟です。

昨年も災害の多い年でした。7月の九州北部豪雨災害や秋田の洪水被害をはじめ各地で豪雨や台風による被害がありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、昨年に引き続き重要な年となります。

まず米政策大転換元年に対する取組です。第一に、本年から国が米の生産数量目標の各都道府県への配分を廃止することに対する取組です。本年からは、地方の再生協議会が独自に米の生産数量目標を定めることとなります。これに応じて、水田における飼料米、麦、大豆等の作付け目標を定め、市場動向等を睨みながら農家や地域の所得確保の最大化に挑むこととなります。この挑戦が成果として結実するには、水田の大区画化や施設管理の省力化等による生産コストの削減を基本として、戦略作物（麦、大豆等）や高収益作物（野菜等）の生産に欠かせない排水改良等の土地改良が不可欠であり、その役割は益々増大していきます。第二に、米の直接支払交付金（10a当たり7500円の交付）が平成29年度限りで廃止されることに対する取組です。これに関しては、基本的にここ3年の間で回復した米価の安定が最重要課題ですが、あくまでも一律の米価でなく、産地・銘柄ごとに消費者の需要動向に応じた生産を行うことが大切です。不足している業務用米に対して低米価で供給しつつ、更なる生産コストの削減を進め、総体として農家の所得が増加する取組が欠かせません。これについても、土地改良の果たす役割が極めて大きいものがあります。

そうした中で、水田作、畑作双方とも生産コストの削減を徹底することが必要となりますが、その削減分が農家の所得に確実に還元される仕組みの構築が重要となります。その一環として農家負担の少ない土地改良事業の実施が挙げられます。事業実施時の農家負担金を抑制するとともに、施設管理時の農家賦課金を節減する取組、これらは農家個々人の努力のみでは実現できないことであり、政策技術と現場技術の双方から、官民挙げてその知見を総動員する必要があります。こうした視点から、新たに制度化された農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業の活用など、昨年見直された土地改良制度等を有効に活用していく必要があります。

次に予算です。今年度補正予算で昨年に引き続き1,452億円の追加がなされ、更に平成30年度当初予算政府案においても4,348億円(対前年328億円増)が計上され、補正と当初を合わせて5,800億円を確保するなど着実に予算が回復してまいりました。これは、まさに「闘う土地改良」の成果であります。私は、再三強調していますが、補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。こうした予算の性格と現場の適応性を踏まえた的確な予算要請も重要だと考えています。いずれにしても土地改良は、政策目標を達成するための手段です。その手段が予算不足により機能しなければ目標が達成できないのは自明なのであり、今後の予算要請に当たっては、目標を明らかにしつつ、予算不足がもたらす目標達成への影響を分かりやすく訴えていくことも必要と考えます。

富山県においても、農地の大区画化や汎用化、農業水利施設の長寿命化対策及び水管理のICT化、さらには農地と県民生活の安全を守る防災減災対策など、取り組むべき課題は山積しており、往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私自身、今年も引き続き「闘う土地改良」の先頭に立たせていただき、全力投球で皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいる覚悟を新たにしていくところです。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



## 人が輝く「元気とやま」の創造をめざして

富山県知事 石井 隆一

明けましておめでとうございます。平成30年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。平成16年11月の知事就任以来、多くの県民の皆様のご支援とご支持をいただきながら、ふるさと富山県の発展と県民の皆様の幸せのために邁進してまいりました。

私の変わらぬ目標は、県民の皆様一人ひとりが夢と希望を持って、いきいきと働き暮らせる「元気な富山県」を創ることです。このため、タウンミーティングなどを通して幅広い県民の皆様のご意見をお聴きしながら、「活力」「未来」「安心」の3つの基本政策と、これらを支える「人づくり」に関する重要政策の推進に積極的に取り組んでいるところです。

昨年は、5月に天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第68回全国植樹祭を成功裡に終えたほか、八月に全面開館した「アートとデザインをつなぐ」富山県美術館には、県内外から多数の方々が来館されるなど、本県の注目度が一段と高まっています。

間もなく開業から3年を迎える北陸新幹線の乗車人員は、開業前の3倍近くの高い水準での利用が続き、観光客の増加、企業の本社機能の一部や研究開発拠点の移転・立地、大型商業施設や物流拠点の進出など、県内各地で様々な効果が現れています。

また、本県の強みを活かした最先端ものづくりの強化、農林水産業や観光の振興、移住・定住の促進など、産業経済や地域の活性化を図り、本県を大きく飛躍させる取組みが広がっています。さらに、社会全体で子育てを支援する体制が整備されるとともに、教育・文化の振興等を通して、真の人間力を育む教育が展開されています。

安心して暮らせる地域づくりについては、医療・福祉の充実や、環境の保全、防災対策の拡充等が着実に図られています。

そして、経済・産業、教育・文化、医療・福祉などの幅広い分野における人材育成を図り、夢・情熱・志を持って、富山県の新たな未来を切り拓く「人づくり」が進展しています。

今後とも、さらなる成長・飛躍を目指し、北陸新幹線の開業効果と国の地方創生戦略の二つの追い風を最大限に活かしながら、「とやま新時代」にふさわしい、活力と魅力あふれるふるさととの創生に向けた取組みを、さらに加速していかなければなりません。

このため、今春を目途に、先見性と実効性のある新たな総合計画を策定することとしており、県民の皆様の知恵と力を結集して、人が輝く「元気とやま」の創造に全力を尽くしてまいります。

新年にあたり、県民の皆様の県政に対するご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



## 新年を迎えて

富山県議会議長 稗 苗 清 吉

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成30年の新春を、皆様とともに寿ぎたいと存じます。

皆様には、日頃から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、グローバル化の一層の進展や環境・エネルギー問題、テロ・事件、災害による社会不安の顕在化など大きく変化しております。特に、昨年は北朝鮮の核実験やミサイル発射の挑発行為で国際情勢が緊迫化するなど激動の一年でありました。

また、農業の分野においては、産地間競争の激化、後継者不足、さらに、本年産からの国の米政策の大幅な見直しや、日欧EPAの大筋合意など国際貿易交渉の進展等もあり、大きな転換期を迎えています。

こうしたことから、県では、本県の実情に即した政策が構築されるよう国に働きかけるとともに、本年秋に本格デビューとなる富山米新品種「富富富」の生産体制の確立や効果的なPRの推進等による富山米のブランド力向上、農地中間管理事業の活用等による担い手への農地集積・集約化、農地の大区画化、汎用化などの農業生産の基盤づくりなどに積極的に取り組むこととしております。

県議会といたしましても、県政運営の両輪の一つとして、必要な公共事業予算の確保や安心して農林水産業を営める環境づくり等への積極的な支援などにより、本県農業・農村がより元気になるよう全力を尽くしてまいり所存であります。

皆様におかれましても優れたノウハウや技術力を活かし、個性豊かな魅力ある農業・農村づくりに向けて、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた幸多い年でありますようお願い申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



## 年 頭 挨拶

北陸農政局長 印 藤 久 喜

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

現在、農業・農村においては、農業を支えてきた昭和・桁世代のリタイアが進行した一方で、意欲ある農業者による様々な取組が進展しており大きく変動しています。こうした中、北陸の水田農業を維持可能なものとするためには、次の三つの方向性が重要と考えております。

一つ目は、収益が上がる農業に取り組まないと次世代の担い手の確保が難しいため、水田をフル活用し、麦・大豆・飼料用米に加え、需要のある露地野菜などの高収益作物の導入を図ることです。

二つ目は、少子高齢化や食生活の変化に伴い、米の国内需要が全体として減少傾向にある中で、輸出用米が求められているほか、お弁当等の中食や外食用のニーズもあり、これらの需要を捉えた生産や販路開拓に積極的に取り組むことです。

三つ目は、地域農業の次世代の担い手を誰にするか、その担い手を応援する体制をどうするかなどを明らかにするため、地域での話し合いを促進することです。

さて、昨年9月に「土地改良法等の一部を改正する法律」が施行されました。改正の概要としては、①担い手への農地集積・集約化の加速化に向け、農地中間管理機構と連携した新たな基盤整備事業を創設し、農業者の費用負担なしに事業が実施できる制度や、②防災・減災対策の強化や事業実施手続きの簡素化といった使い勝手の良い事業制度を整え、また、ため池の耐震化や突発事故対応について、より一層円滑に実施できるようにしております。

さらに、土地改良区の在り方については、土地改良区の実態調査や意見交換を通じて現場ニーズの把握に努め、組合員資格の見直しや業務執行体制の強化等詳細な検討を進めた上で、土地改良法の一部改正に向けた作業に取り組んでいるところです。

また、昨年11月に政府のT P P等総合対策本部において、日 E U・E P Aの大枠合意を踏まえたT P P関連政策大綱の改定がなされました。新たな国際環境の下で、農林水産業を成長産業とするために必要な対策を実施することとしております。これらを受け、農業農村整備事業については、平成29年度補正予算及び平成30年度当初予算において必要な所要額を確保したところです。

結びに当たり、本年も引き続き農政の推進についてご協力とご支援をお願いするとともに、富山県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



## 新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 芝田 聡

明けましておめでとうございます。

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区等の皆様方に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃から本県の農業農村整備をはじめ、農政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、農業農村を巡る情勢は、農産物価格の低迷、農業従事者の高齢化、担い手不足などに加えて、国の米政策の見直しなど、大きな課題に直面しています。このように厳しい状況の中ではありますが、農業は県民の「いのち」と「くらし」を支える生命産業であり、幅広い施策を展開していくことで、元気な農業と魅力ある農村をつくりだし、次の世代へしっかりと継承していくことが重要であると考えております。

このため、県では、農業経営の安定化と収益力の向上に向け、農地を大区画化し、担い手への集積・集約化を加速させることにより、米の生産コストを大幅に低減するとともに、新品種「富富富」の戦略的導入など富山米のブランド力向上による需要の拡大や「とやま農業未来カレッジ」による新規就農者の育成等に取り組んでいます。また、農地の汎用化とともに農業機械や施設の整備を進め、園芸の1億円産地づくりをより一層加速化することとしております。

さらに、昨年9月に成立しました改正土地改良法に伴い、担い手への農地の集積・集約の加速化に向けた農地中間管理機構と連携した新たな農地整備事業の創設、防災減災対策の強化、事業実施手続きの簡素化等が図られました。県におきましても、これらの制度を活用し、意欲ある農業者が希望を持ち、安心して取り組める農業の実現に努めてまいります。

こうした施策を進める中で、地元から要望の強い土地改良予算については、平成22年に国の土地改良予算が大幅に削減されましたが、そのような中であっても、県では、農水省や北陸農政局と相談し、毎年、予算確保に懸命に取り組んでまいりました。昨年度の10月及び2月並びに今年度9月議会で補正予算計61.5億円を可決いただくとともに、今年度では、当初予算96.7億円を計上し、昨年度と比較して114%の158.2億円を確保して、一層強力で事業を推進しております。今後とも、国事業の積極的な活用を図りながら、様々な工夫により、必要な事業制度の充実や予算の確保に努めてまいります。

本年は、国による米の生産数量目標の配分廃止など農政の大きな転換期を迎え、土地改良区の皆様をはじめ、農業関係者の皆さんにとって大変重要な年となります。県としても、職員一同、心を一つにベストを尽くして参りますので、会員各位におかれましても、引き続き、本県農政の推進に、より一層のご尽力をいただきますとともに、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体の限りないご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。





## 年頭のご挨拶

富山県農林水産部参事  
農村整備課長 志村 和信

平成30年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、本県の農業農村の振興、及び土地改良事業の推進に、日々ご尽力頂いておりますこと、心より感謝申し上げます。

昨年は、昭和2年に富山県内務部耕地課が創設されてから、90年の節目の年でした。富山県政における土地改良事業の担当課が綿々と引き継がれてきましたのは、ひとえに土地改良事業に携わる皆様のご支援あつてのことと、改めて、感謝申し上げます。

富山県の美しい大地には、これまでの各時代の課題に正面から向き合い、乗り越えてきた跡が全て刻まれております。それが、単なる自然的な景観をつくり出したということではなく、麗しさを兼ね備えた深みのある味わいを、その風景の中に感じさせてくれる所以だと思います。

しかし、その美しい風景を織りなす農村は、今、超高齢化社会・人口減少社会の到来を受け、大きな変化の波にさらされています。また、本年は、いよいよ国によるコメの生産調整が廃止され、手探りの中での新たなとやま農業の船出となります。ともすれば、悲観論が聞かれる中で、本県には、決して悲嘆に暮れることなく、強い使命感で希望の光に向かって行動している人々がたくさんいると感じています。その原動力は、儲かる農業を実現したいと言う実利的な側面だけでなく、この美しい富山県の風土を愛し、次世代に受け継ぎたいという熱く純粋な責任感だと思います。

私たちは、こうした皆様をしっかりと支えるため、これまでの90年に及ぶ長きに渡って、様々な困難な課題に果敢に挑戦してきたスピリットを持ち続けながら、次世代に農業・農村を引き継ぐための新たな取組に挑戦していきます。

今年は、水管理のICT化の実証事業を総括して、新規採択地区での本格導入を積極的に進めるとともに、特に人手不足が顕著な中山間地域を救う草刈ロボットなどの省力化技術や構造物の診断ロボット技術、さらには、ロボット農機が24時間自動走行できる農業基盤インフラの在り方についても検討したいと考えており、第4次産業革命と言われる、次々と現れるイノベーションの波を活用し、何としてでも、この人口減少社会の抱える課題を技術の力で克服したいと考えております。

今後とも、皆様方とともに、新時代のとやま農業を築く取組みについて、悩み、苦しみ、そして前進の一步を踏み出していく、そのための努力を積み重ねてまいりますので、引き続き、ご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

最後に、本年が皆様とご家族にとりまして、幸多き年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

富山県農林水産部  
農村振興課長 南 理

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族とともに健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、日頃から本県農業農村の振興に格別のご支援、ご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、人口減少や高齢化の進行などによる集落機能の低下や鳥獣被害の発生など、農山村を取り巻く環境が厳しさを増す中、こうした課題への対応に向け、農林水産業の成長産業化を促進する「産業政策」と、住民の生活機能、集落機能など暮らし全般を総合的にサポートする「地域政策」を車の両輪として、地域の方々が安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていくことが大切です。

国においては、農業農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、「日本型直接支払制度」を法定化し、地域の共同活動や、生産条件が不利な中山間地域等における農業生産活動等を支援されており、本県では、貴会をはじめとする関係機関のご協力や各地域に暮らす皆様のご尽力もあり、「多面的機能支払制度」については取組面積率が74%、「中山間地域等直接支払制度」については取組面積率85%と、これらの制度が積極的に活用されているところです。

また、近年、都会とは異なる農山村の価値や魅力が再認識され、若者を中心に都市住民の「農村回帰」の流れが生まれており、豊かな自然や美しい景観、優れた伝統文化等に恵まれた中山間地域がその受け皿として期待されています。県では、地域おこし協力隊の活動支援や地域を支える活動に意欲的な大学生との交流拡大、移住促進をはじめ、農山村の有する地域資源をフルに活用した6次産業化、農村女性起業の取組みへの支援など、各施策を積極的に展開していくこととしております。

とりわけ、鳥獣被害防止対策では、農作物被害が顕著なイノシシへの対応を強化することとしており、地域リーダーの育成やモデル集落の取組み実証などを通じて、集落環境管理、侵入防止対策、捕獲対策からなる総合的取組みの地域ぐるみでの実践を推進してまいりたいと考えております。

今後とも、多面的機能が適切に発揮され、活力ある農業農村の形成をめざし、各種施策を効果的かつ着実に推進してまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、平成30年が明るく実り多い年でありますように、会員の皆様のご健勝と、富山県土地改良事業団体連合会のますますのご発展をご祈念申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

## とやま水土里女子フォーラムの開催

平成29年7月12日、富山県土地改良会館3階研修会室において、富山県と富山県土地改良事業団体連合会の共催による「とやま水土里女子フォーラム」が土地改良区や農業農村整備分野で活躍する女性職員を対象に開催され、土地改良区、県・市町村、県土連、北陸農政局から約100人が参加しました。

志村和信 富山県農林水産部参事 農村整備課長の挨拶があり、続いて「里山での循環型農業の実践から見える希望」と題し、(有)土遊野の河上めぐみ氏より講演がありました。



次に「土地改良の身の丈にあった女性の参画について」と題し、(有)農業マーケティング研究所所長の山本和子氏より講演がありました。

のち最後に、「女子会のあり方、どのように地域を守るか、男性に感じていること」などをテーマに志村参事をコーディネーターとして、パネリストの山本氏、河上氏、氷見市土地改良区 山下秀美氏、庄川上流用水土地改良区 竹村真由美氏、県砺波農林振興センター 中尾有美氏の5氏によるパネルディスカッションを行い、全日程を終了しました。



## 第11回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催

平成29年7月31日に富山県民会館ホールにて、富山県主催による第11回「元気とやま」むらづくり推進大会が開催され、農業及び土地改良関係者等約1000人が出席しました。富山県では農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流を推進しており、これら取組の必要性や成果を県民の皆さんに広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。

石井隆一知事の挨拶のあと、来賓として印藤久喜北陸農政局長、稗苗清吉県議会議長、河合常則富山県土地改良事業団体連合会長（代理鹿熊副会長）の挨拶があり、引き続き今年度 農村振興・環境保全優良活動コンクール知事賞の受賞6団体に知事から賞状が贈られました。

続いて「富山に潜む食材を活かせ！～これからの食のススメ～」と題し、東京農業大学名誉教授の小泉武夫氏から基調講演がありました。

次に、事例発表として受賞6団体から活動内容について発表があり、最後に「元気とやまむらづくり」に向けて総力を挙げて取り組むとの

大会宣言がされました。

また、1階のロビーではパネル展示や、県内12団体の特産品等の販売コーナーが設けられ、一日市場として賑わいました。

優良活動受賞団体は、次の6団体です。◇坪野の里を守る会（魚津市）◇婦中環境広域協定運営委員会（富山市）◇竹鼻環境保全会（舟橋村）◇浄土寺農村環境保全協議会（射水市）◇長楽寺環境保全委員会（南砺市）◇北蟹谷地域活性化協議会（小矢部市）



# 「平成29年 とやま水土里フォーラム」の開催

平成29年10月13日、富山国際会議場において富山県と富山県土地改良事業団体連合会との主催による「平成29年とやま水土里フォーラム」が開催され、土地改良関係者、県・市町村等 約620人が参加しました。

主催者を代表して、石井隆一知事、鹿熊正一県土連副会長から開会の挨拶があり、続いて来賓の印藤久喜北陸農政局長、稗苗清吉県議会議長、篤原幸則富山市農林水産部長の祝辞がありました。



次に県知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の発揮のための活動に取組み、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が石井知事から授与されました。



受賞されたのは、次の1団体と3個人の方々です。おめでとうございます。

- ・上野方荒井用水管理委員会(魚津市)
- ・酒井 忠義 氏(富山市)
- ・松田 昭男 氏(富山市)
- ・高田 豊 氏、高田 寿子 氏(高岡市)

つづいて、とやま水土里賞の団体受賞者である、上野方荒井用水管理委員会から事例発表が行われました。

次に基調講演に入り、貝沼秀夫 氏(農研機構 スマート農業研究統括監)から「スマート農業の現状と今後」と題し講演されました。スマート農業の概要、スマート農業推進の背景について、話がありました。また、省力化や高付加価値化を後押しする先端の農業機械を動画で紹介され、午前の部を終了しました。



一方、会場3階ホワイエでは富山管内の農産加工グループ等による展示・販売と各種団体等による展示ブース・パネル展示があり、大勢の来場者で賑わいました。



午後からは、「新たな知恵と努力で目指せ、とやまのスマート農業」をテーマに農研機構理事 寺島一男氏をコーディネーターとし、パネリストの農研機構 若杉孝介氏、(株)笑農和 下村豪徳氏、(株)クボタ 小林義史氏、積水化学工業(株) 田中正氏、布目沢営農 大木太明夫氏、県農村整備課 志村和信参事の5氏による、各組織の取り組みの紹介や実用化に向けた課題などのパネルディスカッションを行い、全日程を終了しました。



## 「土地改良区新任理事研修会」の開催

平成29年11月6日、11月10日の両日『土地改良区新任理事研修会』を開催しました。

この研修会は土地改良区の運営基盤強化の一環として、特に1期の新任理事の方々に土地改良区に期待される社会的役割とそれに対応する土地改良区理事の責務について認識していただくことを目的に開催しました。6日の呉西管内では会場の高岡市生涯学習センターに60名が参加、10日の呉東管内では県民会館に70名が参加しました。

はじめに当会永森専務理事の挨拶、次に志村富山県農林水産部参事の挨拶があり、研修では

富山県農村整備課桃井主幹から「土地改良区をめぐる状況」と題して、土地改良区運営に影響の大きい農業施策の説明や理事の皆様には組合員と行政のパイプ役を担っていただきたいとの期待が述べられました。次に当会総務部紫藤次長から「理事の役割と責任及び土地改良区に期待される役割について」と題して、公的団体として公正性が求められる情勢にあつて自浄能力が備わった組織を目指して、不祥事件の起きない組織運営態勢づくりをお願いする旨、講義がありました。



志村富山県農林水産部参事



会場の様子

## 第40回全国土地改良大会(静岡大会)

平成29年10月25日(水)、静岡県沼津市のふじのくに千本松フォーラム プラザヴェルデにおいて、第40回全国土地改良大会静岡大会が「“ふじのくに”で語ろう 土地改良が創る豊かな水土里を」をテーマに、全国から土地改良関係者約4,200名が参加し盛大に開催されました。

式典は、開催県である水土里ネット静岡の伊東会長の挨拶で始まり、全国水土里ネットの二階会長から主催者挨拶。続いて、川勝静岡県知事及び大沼沼津市長から歓迎の挨拶。谷合農林水産副大臣、杉山静岡県議会議長及び都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤参議院議員から祝辞が述べられました。その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名をはじめ、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰45名が表彰されました。

続いて、語り部の平野啓子氏から「語り」講演、



室本農村振興局次長から「次世代につなぐ資産づくり」と題して基調講演がありました。静岡県の優良事例紹介では、清水農業協同組合の柴田代表理事組合長から「JAしみずにおける農業農村整備取組事例～守りから攻めの農業～」、農業生産法人 遠州森 鈴木農園株式会社の鈴木会長から「水田を3倍活用した魅力ある農業の展開」と題しそれぞれの取組みに関する紹介がありました。引き続き、土地改良応援講演では、女優の工藤夕貴氏から「身土不二のすすめ 食と農が作る健康寿命」と題して講演がありました。その後大会宣言に移り、最後に、次期開催県の宮城県が紹介され、盛会裡に閉会しました。

### (本県の受賞者)

・全土連会長表彰 福光町土地改良区  
副理事長 荒井武光 氏



## 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請

平成30年度の概算決定に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会(幹事県 福井県)では北陸四県の各土連の会長、事務責任者が、平成29年11月2日に北陸農政局長並びに農政局幹部職員に対して、また、11月14・15日には東京都内にて、自由民主党本部と各県選出国會議員、首相官邸にて宮腰内閣総理大臣補佐官、財務省に

て財務大臣ほか幹部職員、農林水産省では農林水産大臣ほか幹部職員に対して農業農村整備事業当初予算増額の要請を行いました。

特に自由民主党二階幹事長、宮腰内閣総理大臣補佐官、齋藤農林水産大臣とはそれぞれの執務室にて面会し、要請事項を直接伝えました。

### 要請先

自由民主党、財務省および農林水産省政務三役、県選出国會議員、財務省および農林水産省幹部職員と北陸農政局幹部職員

## 要望事項

### 平成30年度の農業農村整備事業関係予算の確保

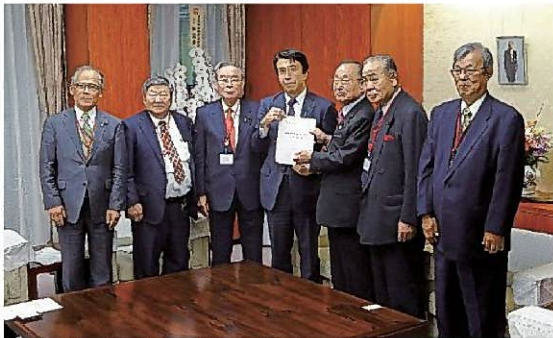
- 農業の競争力強化に向けた生産基盤整備の推進
- 老朽化が進行した農業水利施設の長寿命化対策の推進
- 農村地域の防災・減災対策の推進
- 農業・農村の多面的機能を維持・増進する為の協同活動の推進



自由民主党 二階幹事長



首相官邸 宮腰内閣総理大臣補佐官



齋藤農林水産大臣



農林水産省 荒川農村振興局長

## 平成29年度富山県建設優良工事(土地改良部門)の表彰

富山県が建設技術の向上と建設工事の適正な施工を行い農業農村整備事業の健全な発展を期するため、毎年実施している県内優良工事の平成29年度「知事賞」並びに「農林水産部長賞」の表彰式が、平成29年11月30日富山県民会館において工

事関係者を招き開催されました。

また、各農林振興センターの表彰式は、新川管内(12月6日)、富山管内(12月7日)、高岡管内(12月7日)、砺波管内(12月6日)で、それぞれ開催されました。

### 【知事賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
(株)花岡組 花岡立夫	農村地域防災減災	用排水施設整備片貝川沿岸地区天神野用水路第9工区工事	魚津市東山
水新建設(株) 水野幸裕	農村地域防災減災	用排水施設整備下大久保地区下大久保用水路第6工区工事	富山市下大久保
高田建設(株) 高田 実	農地整備	ほ場整備水戸田地区ほ場整備第12工区工事	射水市水戸田

### 【農林水産部長賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
小川建設工業(株) 岡田富治	農地整備	ほ場整備窪田地区第7工区ほ場整備工事	下新川郡朝山町窪田
(株)婦中興業 竹内 茂	農地整備	ほ場整備長沢地区第1工区ほ場整備工事	富山市婦中町長沢
三久建設(株) 西川宝三	農村地域防災減災	ため池整備平沢地区宮田池堤体改修工事	水見市平沢
(株)丸三国上建設 上田紀夫	農地整備	土地改良総合整備反保島地区暗渠排水第1工区工事	高岡市反保島
砺波工業(株) 上田信和	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区山王川用水路第5工区工事	砺波市小杉
(有)西森組 西森昭治	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区山王川用水路第10工区工事	砺波市杉木

〔新川農林振興センター所長賞〕

	賞区分	受注者	工 事 名	工事場所
県	優秀賞	太平建設工業(株)	土地改良総合整備滑川東部2期地区堀ノ内用水1号線ほか6路線工事	滑川市堀ノ内外
団体	優秀賞	共栄工業(株)	県単独農業農村整備事業古田用水路蓋版設置工事	魚津市石垣新
営	良賞	テラノ工業(株)	県単独農業農村整備事業小摺戸地区水路改修工事	入善町小摺戸外

〔富山農林振興センター所長賞〕

	賞区分	受注者	工 事 名	工事場所
県	最優秀賞	大陸建設(株)	基幹水利施設井田川流域3期地区杉田用水路第3工区工事	富山市八尾町薄島外
営	優秀賞	日宏建設(株)	農道保全新婦地区路面改良大山工区その1工事	富山市馬瀬口外
団体	優秀賞	(株)エステック	団体営水利施設整備事業井田川沿岸地区井田川沿岸マイクロ発電施設工事	富山市八尾町上高善寺外
営	優秀賞	(株)西田組	団体営水利施設整備事業谷口2期地区四谷尾用水改修工事	立山町白岩・谷口
営	良賞	(株)東洋住設興業	団体営水利施設整備事業減鬼地区減鬼排水路第1工区工事	富山市八尾町減鬼

〔高岡農林振興センター所長賞〕

	賞区分	受注者	工 事 名	工事場所
県	最優秀賞	(株)廣田組	ほ場整備広上地区14号排水路付帯施設整備工事	射水市広上
営	優秀賞	西川工業(株)	地すべり対策氷見3期地区五十谷集水井整備その4工事	氷見市五十谷
団体	優秀賞	松島工業(株)	基盤整備促進吉住中部2期地区大井川11号用水路第3工区工事	高岡市戸出吉住外
営	良賞	大研運輸建設(株)	県単独農業農村整備福岡町三日市地区排水路改良工事	高岡市福岡町三日市
営	良賞	(株)四方組	土地改良施設維持管理適正化沖2工区地区用水路整備工事	射水市沖

〔砺波農林振興センター所長賞〕

	賞区分	受注者	工 事 名	工事場所
県	最優秀賞	山田建設(株)	中山間総合整備となみ・なんと山麓地区砺波工区水路整備第6工区工事	砺波市浅谷
営	良賞	(有)長谷川建設	土地改良総合整備高波東部地区水路整備第18工区工事	砺波市高波
団体	優秀賞	中越興業(株)	基盤整備促進事業千福用水路第2工区工事	南砺市上原
営	優秀賞	片山工業(株)	県単独農業農村整備事業明神用水(小山)地区用水路漏水修繕工事	南砺市小山
営	良賞	松本建設(株)	県単独農業農村整備事業(地域営農確立促進事業)野村島18-4号排水路工事	砺波市野村島

## 農業集落排水施設に係る新技術普及研究会 北陸ブロック会議

本研究会は、集排施設の整備、改築、維持管理に関する技術を調査・研究するとともに、それら技術を市町村等に提供・普及し、円滑な整備及び効率的な維持管理を推進することを目的に、(一社)地域環境資源センター、全土連、地方土連で構成された組織です。

◆本年度は、本省キャラバンを組み入れた会議として下記のとおり開催しました。

- 1)日 時 平成29年7月10日(月)13:15～
- 2)場 所 北陸農政局 中会議室
- 3)参加者 農村振興局、北陸農政局地域整備課、北陸管内の県担当者、4 県土連、(一社)地域環境資源センター集落排水部の担当者 計25名

### 4)議 事

- ①農業集落排水事業に係る情勢について
  - ・ 予算及び再編計画の策定、機能保全・費用対効果の分析等
- ②地域環境資源センターでの技術開発・調査研究事業及び集排施設に係る取組事例の報告について
- ③その他
  - ・ 意見交換会



## 平成29年度 北陸ブロック 土地改良区体制強化事業 新規担当者研修

平成29年7月24日から28日にかけて、富山市の富山県民会館において、平成29年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業 新規担当者研修(当番県:富山県土地改良事業団体連合会)が開催され、北陸四県の県、市町村、土地改良区及び県土連担当者約40名が参加しました。

研修は、永森雅之富山県土地改良事業団体連合会専務理事の開催挨拶のあと、富山地方務局、北陸農政局、富山県、国土地理院北陸地方測量部、全国土地改良事業団体連合会より講師を招いて、下記の内容で行われました。

日時	研修内容	講師
7月24日	相続について	富山地方務局 登記部門 登記相談官 高橋 一悦
7月25日	土地改良法の概要	北陸農政局 農村振興部 土地改良管理課 土地改良指導官 菅原 安美智
	土地改良換地制度の見直しについて	北陸農政局 農村振興部 土地改良管理課 団体指導・資金係長 堀井 三雄
	換地理論	北陸農政局 農村振興部 土地改良管理課 農地集団化係長 高森 正史
	交換分合の概要	北陸農政局 農村振興部 土地改良管理課 農地集団化係長 高森 正史
7月26日	不動産登記法及び土地改良登記令	富山地方務局 登記部門 表示登記専門官 立道 実義
	道路法の概要	富山県 土木部 道路課 業務係 主事 前原 瑞樹
	河川法の概要	富山県 土木部 河川課 主幹(課長補佐・業務係長) 大村 勇純
	農地制度の概要	富山県 農林水産部 農業経営課 農地利用係 係長 八坂 和明
	換地計画書作成実務	富山県土地改良事業団体連合会 事業部指導計画課 主任 松井 俊浩
	測量法に基づく公共測量の諸手続き	国土地理院 北陸地方測量部 測量課 調査係長 鎌薊 裕紀
	換地計画書作成実務	富山県土地改良事業団体連合会 事業部指導計画課 係長 筒井 政和
7月27日	換地計画書作成実務	富山県土地改良事業団体連合会 事業部指導計画課 係長 筒井 政和
	現地研修	砺波方面(JAとなみ野・小水力関連)
7月28日	土地改良換地を巡る情勢について	全国土地改良事業団体連合会 中央換地センター 所長 浦山 正四
	換地計画書作成実務	富山県土地改良事業団体連合会 事業部指導計画課 係長 筒井 政和



## 平成29年度換地関係異議紛争処理実務研修会(北陸ブロック)

平成29年10月5日～6日、金沢市内において平成29年度換地関係異議紛争処理実務研修会(主催:全土連、開催県:石川県土連)が開催され、農政局・全土連・北陸4県の県・県土連の換地担当者29名が出席しました。

挨拶の後、北陸農政局の菅原土地改良指導官から「換地を取りまく状況について」と題して中央情勢について報告が行われました。引き続き新潟県・富山県の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディーの検討会が行われました。テーマは、「大字総有の土地を、便宜、大字代表者10名で譲渡を受けたとする証文の残る土地について、町内会への名義変更方針を巡り1名の関係者と紛争になっている事例」、「事業参加の経緯から地元集落との確執を有する者に対する換地交付案として、個別同意を要する特別

換地を回避して普通換地とした事例」について、活発な意見交換及び総括が行われました。翌日は、福井県から「換地原案と原案に基づいた一時利用地に対する異議申立てについて」の説明があり検討会が行われました。最後に、中央換地センターから「財産管理制度活用推進委員会における検討状況」等の報告が行われ全日程を終えました。



# 土地改良区の基盤強化を目指す各種研修会の開催

## ①平成29年度富山県換地センター換地計画実務研修会

平成29年6月28日に富山国際会議場にて「平成29年度富山県換地センター換地計画実務研修会」が開催され、土地改良区、県、県土連の担当者、計89名が出席しました。富山県換地センターでは、換地技術者育成を目的とした研修会を年2回実施しており、今回は前期研修会となります。研修会は、まず浦田一郎換地士部会長、松倉勝巳富山県土地改良事業団体連合会指導計画課長の開会挨拶があった後、下記の内容にて研修を行いました。

講義内容	講師
農地利用集積と集落営農組織の法人化について	富山県農林水産部農業経営課 副主幹・経営支援係長 齊藤 義晴 氏
ほ場整備事業（面工事と換地）の流れ	富山県土地改良事業団体連合会 指導計画課 係長 筒井 政和 氏
第68回全国植樹祭について	富山県農林水産部森林政策課 全国植樹祭推進班 班長 草島 すなお 氏

## ②平成29年度ため池安全点検・管理体制強化に関する現地研修会及び技術研修会

平成29年6月30日、地域における大切な農業・農村の資源であるため池の機能確保と良好な形で次世代に継承していくよう、ため池管理者等を対象に「点検管理」の現地研修会及び技術研修会を行いました。また、平成28年度から実施している「安全対策」により関係者のため池管理に係る安全意識を高めるため、整備した安全施設の整備報告も行いました。研修内容は下記のとおりです。

名称	内容	出席・参加者
1. 安全施設整備報告	○安全施設の整備状況の確認 場所：砺波市「腰の堤」	・関係土地改良区、ため池管理者 ・市、県等の関係者
2. ため池安全点検・管理現地研修 (毎年7/1に実施している安全パトロール)	○ため池点検表に基づく点検及び安全対策整備の説明 場所：砺波市「腰の堤」 南砺市「打尾谷ため池」	・砺波、南砺市の関係土地改良区等ため池管理者 ・砺波、南砺市、富山県の担当者、災害ボランティア ・約100名参加
3. 防災減災に関する技術研修	○ため池の安全管理体制整備及び防災態勢強化と災害復旧 講師：北陸農政局防災課 茶志川課長補佐 星特殊防災係長 場所：砺波農林振興センター	・砺波、南砺市の関係土地改良区等ため池管理者 ・呉西地区の市・県の担当者 ・約50名参加



【現地研修】



【室内研修】

### ③富山県構造改革推進ほ場整備研究会 先進地研修

富山県構造改革推進ほ場整備研究会（会長；長原一夫大門町土地改良区理事長）では、平成29年10月17日（火）～18日（水）に福井県嶺北方面の先進地研修を行い、会員ら23名が参加しました。

まず国営九頭竜川下流農業水利事業の視察を行い、鳴鹿堰堤管理事務所で九頭竜川流域の水利用の苦勞から始まった大規模なパイプライン整備を中心とした事業概要の説明を受けた後、今後の農作業の合理化に資すると見込まれる、地下水位制御システムほ場、水管理 I C T 化実証試験田を視察し、参加者からは具体的な仕組みや設置条件、経費や導入効果など活発な質疑が交わされました。また、パイプライン内の圧力調整のための高さ約20mの巨大な調圧水槽なども見学しました。

次に県営ほ場整備事業川西中部地区（A=271.2ha）と、大規模な営農組織である農事組合法人メガファーム鶉（うずら）を視察し、国営農業水利事業との連携により、10a区画から2.5ha（250m×100m）への基盤整備事業の実施について、また、関係の8集落・面積174.1ha・組合員数165人を超える農事組合法人の設立・運営について研修し、基盤整備事業では、海岸に近い場所での低湿地帯特有の苦勞や工夫、また、営農におけるコスト削減努力などについて質疑が交わされました。

今回実際の現場を確認できる有意義な研修となりました。



## 式典 発電所の完工式・起工式・運転開始式

平成26年度に地域用水環境整備事業で着手した地区において、小水力発電所の完工式が下記のとおり行われました。また、平成27年度に着手した舟子川地区において、安全祈願祭並びに起工式が行われました。

	式典年月日	地 内	(kW)最大出力	売電開始	事業主体
常東合口幹線発電所 (常東合口幹線地区)	H29. 8. 11 (完工式)	立山町 三ツ塚新	5 2 8	H29. 8	常東用水土地改良区
黒谷発電所 (黒谷地区)	H29. 10. 20 ( " )	魚津市 黒 谷	4 5 0	H28. 12	魚津市土地改良区
浦山新発電所 (浦山新地区)	H29. 10. 24 ( " )	入善町 浦山新	2 7 4	H29. 9	入善土地改良区
舟子川用水発電所 (舟子川地区)	H29. 10. 4 (起工式)	黒部市宇奈月町 浦山外	1 9 0	H30. 10 (予定)	黒部川左岸土地改良区



【常東合口幹線発電所】



【黒谷発電所】



【浦山新発電所】



【舟子川用水発電所】



## ◆富山県農業用水小水力利用推進協議会◆

◆技術力向上研修事業の一環として、小水力発電導入に係る制度設計、施工事例、運営管理等の技術取得を図ることを目的に、全土連が開催する中央研修（東京都内外）に当協議会から参加しました。

回数	月日	研修内容	参加人数
第1回	H29. 8/30～ 8/31	基礎技術（制度、事例紹介）	1名
第2回	H29. 9/20～ 9/21	会計運営（複式簿記・会計）	2名
第3回	H30. 1/16～ 1/18（予定）	応用技術（発電演習）及び現地見学	3名程度

◆「発電施設見学会」を開催しましたので紹介します。

- 1) 日 時 平成29年11月7日（火）PM1:00～
- 2) 施設名
  - ・常東合口幹線発電所（事業主体：常東用水土地改良区、H29.8月運用開始）  
説明者：城前 事務局長、相地 県土連係長
  - ・低炭素化モデル施設（事業主体：富山市環境政策課、H28年設備導入開始）  
説明者：東福 富山市環境政策課課長代理
- 3) 参加者 土地改良区等、富山県、市町村の小水力発電担当職員 約60名



【常東合口幹線発電所】



【低炭素化モデル施設】



◆富山県多面的機能推進協議会◆

平成29年4月13日に多面的機能支払制度における未取組地域を対象とした「新たな取組の拡大」や現在の取組組織の「継続性の確保」を推進するため、富山県多面的推進協議会が設立されました。また、協議会の普及活動のひとつとして同年11月1日に富山産業展示館(テクノホール)において、「多面的機能支払推進研修会」が開催され、活動組織、関係機関等から約500人が参加しました。

研修会は事務研修と補修技術等の研修があり、新川・富山農林振興センター管内と高岡・砺波農林振興センター管内の二つのブロックに分かれて行われ、事務研修においては県内の多面的機能支払の取り組み状況や事務書類作成時の留意点、県内の事例として土地改良区と活動組織の関わりについての講義を受けました。また、補修技術等の研修においては各資材メーカーの担当者より製品紹介やデモンストレーション等が行われ、有意義な研修会となりました。



◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。

維持管理計画書作成に係る調査費、土地改良区事務所の新增築、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など

3. 融資条件

●貸付対象者

土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

区 分		H29.11.20現在
補 助 事 業	県 営	0.45 %
	団 体 営	0.30 %
非 補 助 事 業	一 般	0.30 %

〈お問い合わせ先〉

- ・富山県農林水産部農村整備課換地業務係 076-444-3375
- ・北陸農政局農村振興部土地改良管理課 076-263-2161 (代表)
- ・富山県土地改良事業団体連合会事業部管理指導課 076-424-3380

〈融資担当機関〉

- ・日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
- ・農林中央金庫富山支店 076-445-2508 (公庫受託課)

## 会長 河合 常則 氏 逝去



元参議院議員で本会会長の河合常則氏が昨年9月7日、80歳で逝去されました。故河合常則氏は、平成7年本会監事に就任され、平成8年から理事として、その後平成17年からは会長として、長きにわたり本県土地改良事業の推進と健全な運営のために多大なご尽力を賜りました。

ここに深く哀悼の誠を捧げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## お知らせ

### 今後の主な行事予定 (平成30年1月～)

月 日	会 議 と 行 事	場 所	参 加 対 象	備 考
2月 1日	換地計画実務研修会	富山県総合情報センター	土地改良区等	主催
2月 8日	2017水土里の語り部交流会 in とやま	サンシップとやま 富山県総合福祉会館	土地改良区等	県・県土連
2月15日 ～17日	とやまの農山村写真展 表彰式・展示	富山県民会館(ギャラリーD)	一 般	県
2月15日	ため池監視・管理体制強化研修会及び 災害復旧技術向上のための講習会	土地改良会館3階	県・土地改良区 ため池管理者	県
2月21日	富山県担い手育成ほ場整備研修会	富山県民共生センター サンフォルテ	土地改良区・ 営農関係者等	ほ研会
3月28日	本会 第60回通常総会	ホテルグランテラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 本案はあくまでも予定であり、別途詳細案内等を確認のうえ参加ください。

## 平成29年度「とやま水土里賞（知事賞）」受賞者の紹介

### ■ 団体の部 ■



上野方荒井用水管理委員会  
(魚津市)

荒井用水路  
(倒木処理など維持保全状況)

### ■ 個人の部 ■



酒井 忠義 氏  
(富山市)

下条用水路  
(郷川頭首工スクリーンの除塵状況)



松田 昭男 氏  
(富山市)

神通川左岸合口用水路  
(添島分水門の維持管理状況)



高田 豊 氏、寿子 氏  
(高岡市)

五十玉用水路和田川排水門  
(水門の操作状況)



農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する  
ご相談は、下記までお問い合わせください。

## 富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地  
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332  
<http://www.tym-midori.net/tomidoren>

